

若杉 実の

裏口音学

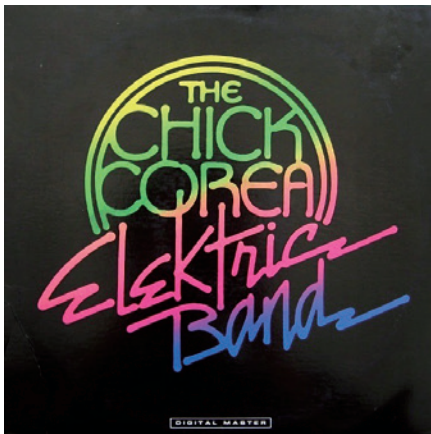
81

表が裏で、裏が表！

若杉 実: 足利出身の音楽ジャーナリスト。雑誌への寄稿、連載をはじめCDのライナーノーツを執筆。CD、DVD企画も200タイトル以上手がける。RADIO-i(愛知国際放送)、Shibuya-FMなどラジオのパーソナリティも担当していた。著書に「渋谷系」「東京レコ屋ヒストリー」「裏ブルーノート」「裏口音学」、新刊「ダンスの時代」。

ご意見などはブログ&メールまで。
<http://wakasugim.jugem.jp/>
wakasuginoru@hotmail.com

あるジャズマンの別人格



THE CHICK COREA ELEKTRIC BAND
 「Same」
 (GRP)

「別人格ですから」(菅首相)。官僚への接待問題で浮上したロン毛息子との関係はそりゃそうだろうが、カンペに頼らず自分のことばが出てきたとおもったらこれか。日常会話ですらめったに使わないことばを、威厳なる国会で発信するものだからびっくり。

ところでそういう別人格というのは、自分から無自覚に引き起こすこともある(交代人格)。2月9日に他界したチック・コリア(享年79)。彼の諸作の目録に目を走らせていると、別人格にでもならないかぎり演奏できないような曲の存在に気づく。「チック・コリア・エレクトリック・バンド」の初弾(1986年)に収録されていた電化ファンク調の「Elektric City」。MVでは目を疑いたくなるような絵が襲ってくる。ズートスーツに身を包んだ黒人ダ

ンス・グループI.D.J.を起用し、チックもいっしょに身体を揺らしているのではないか。

元来器用なだけにやれないことはないのだろうが、それでも商業主義とは無縁の彼には、生涯のキャリアを象徴する「Return To Forever」(下枠)や、名曲「Spain」の作者としての堂々たる顔がある。つまりそれらとは真逆の世界「Elektric City」に足をつまむには、別人格となって“これが正常”であることを脳にプログラミングしておかなければならない。

そのような“書き換え”は、第三者からのあるひと引き金となっていた。ロンドン・ツアー中、ラジオに出演したチックは耳を疑いたくなるような事実を司会者から教えられる。「“Central Park”(70年代のチックの作品)がディスコでかかるとダンサーが飛びつくように踊るんです」。「ショックだ、わたしの音楽がディスコミュージックだなんて」。つまり当初こそ気が引けていたものの、なんなら便乗しようじゃないかと新曲にその類を用意、彼らに声をかけ共演が実現した。

またはこういう話も考えられる。盟友のハービー・ハンコックが3年前に放った「Rockit」の成

功劇も、当時チックの記憶には残っていた。グラミー授賞式のステージにおいて、Bボーイ扮するロボットが、終盤にかけブレイクダンスで場内を沸かすという伝説のひとつ幕。「Elektric City」に起用されていたI.D.J.は、そのようなブレイクダンスに対するロンドンからの返報として、同時期に勃興したUKジャズダンスの雄として知られていた。

本バンドを始動したときチックの年齢は45。つまりそのようなユースカルチャーに呼応したまではよかったものの、いっぽうで過度の“若づくり”がメンバー間に軋轢を招くことになる。技巧派のスコット・ヘンダーソンが初代ギタリストだったが、アルバム制作中に早くも解任。理由らしきものはスコットの後日談から推して知るべし。「チックはダンスをしながら演奏をし、わたしにも派手なパフォーマンスを要求してきた」。対するチックの野心も固かった。「古い考えの人間よりも若者に聴いてほしい」。

ミュージシャンが“若者に”と発したとき、わたしたちは警戒心をもたなければならない。得てしてそれは“若くありたい”という願望であり、“自分はまだ若い”という自己暗示でもあるだろうから。

CHICK COREA 『Return To Forever』 (ECM)

1972年作。俗称“カモメ”(表紙/正しくはカツオドリ)で知られる代表作は同名プロジェクトにまで発展、クロスオーヴァーの鼻祖として70年代を牽引する。「Elektric City」について、解任させられたスコット・ヘンダーソンは録音に不参加、MVには出演するという奇妙なキャストイングを残す。90年代、六本木WAVE(CDストア)のモニターに本MVが流れたことで、日本にもUKジャズダンスがひろまったとされている。



貴金属・時計・ブランドバッグ・ブランド小物類・ブランドジュエリー・金券・商品券・香水・化粧品・洋酒

断捨離・終活、お手伝い

安心の買取り、
 リヨンにお任せください

お電話で「出張買取」もいたします。

- 女性宅も安心 ● 弊社女性スタッフが伺います
- 玄関先でOK ● プライバシーを守ります

ブランド&ジュエリー リヨン TEL.0284-74-4110

足利市朝倉町3-9-1 営業時間 10:00~19:00 木曜定休 <http://www.lyon-a.com>